

おめでとう

遠藤亜希子

群馬県・二六・会社員

お元気ですか。風の便りで聞きました。赤ちゃんがお生まれになるそうですね。

あの日、あなたが泣きじゃくる私に背を向け、黙って部屋を出て行ってしまった日から、一体どれ程の月日が流れたのでしょうか。短かったのか、長かったのか、もうわからなくなってしまいました。

あなたとのお付き合いを始めたと、大好きな友達に告げられた日、そして、お二人の結婚が決まったと知った日。あなたの為にあれ程泣いて、もう一生分の涙を流しきってしまったと思っていたのに、あなたを想う温かな涙は、次から次へと溢れでて、止むことはありませんでした。

どうして、彼女なのですか。

可愛くて、素直で、輝いていて……。私でさえも、守ってあげたくなってしまう、本当に素敵な彼女。もっとつまらない女性をあなたが選んでいたら、お似合いねと、笑ってあなたを忘れられたのに。そんな素敵な彼女を選んでしまうあなただから、私はあなたを忘れることができないのです。

でも、私は決めました。あなたを忘れると。あなたを忘れるために、私はあなたよりも前を歩きます。

あなたの姿が見えないように、あなたを思い出さないように、あなたよりもずっと前を歩こう。あなたなんかいなくても、強く、凜と生きていく私が、あなたから見えるように。

これが、あなたの為に流す、最後の涙です。あなたの温度も、声も、叶えられなかったあの約束も、この涙と一緒にさよならをします。ずっと言えなかった、でもずっと言わなくちゃと思っていた言葉。あなたを越える

ために、前に進むために、今なら、言える。

「おめでとう」

*三年ほどのお付き合いをして別れた彼が、私の次に選んだ女性は、私の職場の後輩でした。
二人は一年も経たないうちに結婚し、もうすぐ赤ちゃんが生まれるそうです。